

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 他学部・他大学出身者に拡大した特別入試制度の効果を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「他学部・他大学からの受験者数・合格者数・入学者数」「他学部・他大学からの入学者に対するアンケート調査の実施」「他学部・他大学からの入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B		
2. 社会人に拡大した特別入試制度による社会人入学者の増加を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「社会人の受験者数・合格者数・入学者数」「社会人受験者の専攻科目」「社会人入学者の履修科目(昼夜別)」「社会人入学者に対するアンケート調査の実施と分析」「社会人入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B		
3. 本研究科への進学希望者のニーズを把握し、受験者を大幅に増加させるために効果的な方法を検討する。	→「学部学生に対するニーズ調査・進路希望調査の実施と分析」「大学入試説明会の開催状況」「学部学生と大学院生の交流状況」「広報活動の強化」「受験者数」「進学希望者のニーズを把握するための検討の進捗状況」	C	C	C		
4. 学生募集および入学者選抜の実施に伴う合否判定基準の適切さについて、定期的に検証する。	→「各種入試の合否判定基準についての大学院問題検討委員会における定期的検討」「各年度における大学院問題検討委員会における検討状況についての研究科委員長への報告」	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2010年度入試（2009年度実施）から、大学院入試制度を、他学部・他大学出身者に門戸を広げる方向で見直したが、他学部・他大学出身者の前期課程の受験者・合格者・入学者数は、2010年度（10・4・3名）、2011年度（17・4・3名）、2012年度（6・1・0名）と、全体数からするとまだ少数であるが一定の成果を挙げている。今後、一層の進捗のために、ホームページ上で入試要項を公表する現在の方法以外に、広報の方法等について検討する余地がある。
目標2	2010年度入試（2009年度実施）から、大学院入試制度を、社会人に門戸を広げる方向で見直した結果、社会人の前期課程の受験者・合格者・入学者数は、2010年度（6・5・5名）、2011年度（3・2・2名）、2012年度（6・3・2名）と、徐々にではあるが効果を挙げつつある。今後、一層の進捗のために、現在、ホームページ上で入試要項を公表したり、説明会を開催する現在の方法以外に、広報の方法等について検討する余地がある。
☆ 目標3	本研究科の進学説明会を年3回（上ヶ原キャンパス2回、梅田キャンパス1回）に増やし、情報提供に努めているが、進学希望者のニーズの把握のための対応は行っていない。法学研究科での研究の実際や、法学研究科終了後の進路等について、さらに情報提供を行ったり、TA制度やLA制度等を通じて院生と学部学生とが直接コンタクトを取る機会を意識的に拡大する等で、受験生増加の試みをこれから行う必要がある。
目標4	入試制度における論文試験・外国語試験・面接試験の評価基準および実施方法について、入試の実施の都度、大学院運営委員会および研究科委員会において、随時、検討し、改善対応を行っている。
備考	

《評価指標データ》

（特定項目データ）本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学研究科】		前期／後期課程	単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	45	45	45	45	45	・5/1現在
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標2	志願者総数	前期課程	人	22	29	39	55	42	・5/1現在
		後期課程		4	5	8	4	5	
指標3	合格者数	前期課程	名	17	18	25	32	23	・5/1現在
		後期課程		2	2	2	2	4	
指標4	入学者数	前期課程	名	14	13	20	26	20	・5/1現在
		後期課程		2	2	2	1	3	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.5	0.6	0.9	1.2	0.9	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.7	0.8	1.3	0.7	0.8	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.39	0.36	0.32	0.37	0.38	・5/1現在 ・入学者数÷入学定員
		後期課程		0.47	0.43	0.37	0.37	0.43	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	78.6%	61.5%	50.0%	61.5%	60.0%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	
指標8	収容定員	前期課程	名	90	90	90	90	90	・5/1現在
		後期課程		18	18	18	18	18	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	28	29	36	49	49	・5/1現在
		後期課程		10	11	6	5	6	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	31.1%	32.2%	40.0%	54.4%	54.4%	・5/1現在
		後期課程		55.6%	61.1%	33.3%	27.8%	33.3%	